



保護者のサポート



- 子供のがんばりを認め、できたことをほめましょう。
- 子供の考えや様々な疑問に向き合い、わからないことなどは一緒に調べましょう。

学習時間の目安 **20分**程度



**基本的な学習習慣づくりを
サポートする!**

こくご

おんどく きょうかしょをおおきなこえでよめるようにしましょう。まいにちつづけて、れんしゅうしましょう。

かんじ 正しいしせいで、ていねいにゆっくりかきましょう。また、かきじゅんやかたちにきをつけてかきましょう。



さんすう

けいさん ゆっくりせいかくにできるように、ただししいけいさんてじゅんをみにつけましょう。

ただしくけいさんできるようになったら、はやくせいかくにできるようにしましょう。

そのほか

- としょかんでほんをかりたり、きょうどはくぶつかんにいってしらべたりしましょう。
- おやこでうんどうをしたり、はなやむしなどのしぜんにふれることもたいせつです。
- たのしかったことやうれしかったことをえにっきやにっきにかいてみましょう。



- 音読の際は、立って読むと、大きな声が出やすいです。いろいろな本の読み聞かせをしてあげましょう。また、興味や関心に応じた本を周りに置いてあげましょう。ぜひ図書館を活用してください。



- お皿を並べたり、お菓子を分けたりなど日常生活中で楽しく数量に触れる経験を多くさせてあげてください。

- 鉛筆の正しいもち方について身に付けさせてください。
- 体に合った椅子を用意し、よい姿勢で座れるようにしてあげてください。
- 20分間よい姿勢で座り続けられたら合格です。



国語

音読 まいにちおんどく
毎日音読しまし
う。

漢字 ただ かい じゆん
正しい書き順で、
せいかく もじ か
正確に文字が書けるようにし
ましょう。とめ、はね、はらい
き つ れんしゅう
に気を付けて練習しまし
ょう。



算数

計算 ざん ざん
かけ算やわり算な
ただ けいさん てじゆん み つ
ど正しい計算手順が身に付く
よう、毎日繰り返し練習しま
まいにち く かえ れんしゅう
しょう。三角定規や分度器、
さんかくじょうぎ ぶんどき
コンパスが正確に操作できる
ようにしまし
ょう。

そのほか

- としょかん きょうどはくぶつかん かつよう
図書館や郷土博物館を活用
しまし
ょう。
- おや こ うんどう しぜん
親子で運動をしたり、自然
ふぶ たいけん
に触れる体験をたくさんし
よう。
- につ き さくぶん ぶんしやう か
日記や作文など文章を書
き かい ふ
く機会を増やしまし
ょう。



音読の際は、立って読むと、
大きな声が出やすいです。読
み終えたら、心に残ったこと
などについて聞いてあげま
しょう。また、図書館を活用
し、いろいろな本に出会わせ
てあげてください。



九九が暗唱できるか確認して
あげましょう。答え合わせを
一緒に行い、間違った問題は
必ず、やり直すことが重要で
す。

学習が終わったら、遊びやテ
レビゲーム等をしてよいなど
のルールを決め、徹底させま
しょう。





保護者のサポート



- 子供の自尊感情を大切にするとともに、がんばりを認め、できたことをほめましょう。
- 子供の考えや様々な疑問に向き合いましょう。自分でできることは、挑戦・解決させ、その過程を見守りましょう。

学習時間の目安 **60分**程度



見守り、励まし、自主性を伸ばす!

国語

音読 じょうけい しゅう 情景を浮かべながら感情を込めて読めるようにしましょう。詩や俳句などを暗唱したり、朗読したりしましょう。

漢字 かんじ こうせい じけい 漢字の構成や字形を意識して練習しましょう。国語辞典や漢字辞典を使う機会を増やしましょう。

読書 しゅるい いろいろな種類の本を選び、毎日読むようにしましょう。

教科書の音読を続け、素晴らしい文章にたくさん触れると表現力が高まり感性も豊かになります。また、図書館を活用し、いろいろな本に出会わせてあげてください。

算数

計算 はや せいかく けいさん 早く正確に計算できるようにしましょう。

• 答えの確かめをできるようにしましょう。

• 新しく学習する教科書の内容を読みなどの予習を行い、学習の見通しをもって授業に臨みましょう。

答え合わせを一緒に行い、間違った問題は必ず、やり直すことが重要です。わからないところがある場合は、次の日に学校で先生に教えてもらうようにさせてください。

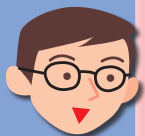
そのほか

• 図書館や郷土博物館を活用しましょう。

• おしゃべりをしながら、散歩をしたり、自然に触れる体験をしましょう。

• 日記や自主学習などの文章を書く機会を増やしましょう。

学習が終わったら、遊びやテレビゲーム等をしてよいなどのルールを決め、守るようにさせましょう。





保護者のサポート



- 「勉強を教える」ことよりも、「勉強をしている姿を見守る」ことが大切です。
- 学校でがんばっていることや困っていることについて話をしましょう。
- 将来の夢や職業について話をし、夢を実現するために何が必要なのかを考えさせることも大切です。

学習時間の目安

1年生 1時間以上 2年生 1時間半以上 3年生 2時間以上

**目標をもち、計画的に
学習する習慣を身に付ける!**

国語

音読 (朝にやることがお薦めです)

教科書を声に出して読むことで、**脳が活性化**します！ 毎日続けると、詩や古文、漢文などに慣れ親しむことができます。(英語も同様)

予習 教科書の文章を読んだ後、辞書を使いながら意味を理解し、**自分なりに解釈し自分の意見をもった上で授業に臨みます**。授業では、**自分の考えと先生などの考えを比べながら、自分の考えを深める**ようにすると、より一層授業がおもしろくなります。

読書 (就寝前に行うことがお薦めです)

教科書やテスト範囲などに限定せず、**興味を広げ**、いろいろな種類の本を選び、毎日読むようにしましょう。

数学

予習・復習

教科書をじっくり読み、「**わからない**」という気持ちにさせた原因となる語句を探し出してアンダーラインを引きます。その語句が初めて教科書に登場した箇所を索引などを使って探し出し、そのページに戻って理解し直しましょう。

また、「**わからない**」ところに自立印をつけたり付せんを貼ったりしておく、授業中に先生の解説を**注意深く聞いて理解**することもできます。授業外に先生や友人に教えてもらうこともよいでしょう。





保護者の皆様へ



心の東京革命推進協議会では、「心の東京ルール」～7つの呼びかけ～を提唱し、親や大人が子供達に正面から向き合い、次代を担う子供達に対し、正義感や倫理観、思いやりの心を育み、人が生きていく上で当然の心得を伝えていく取組を推進しています。子供は大人を映す鏡であり。大人は子供の鑑（手本）です。親も大人も、その行動が子供に大きな影響を与えることを自覚し、善悪に対する毅然とした態度や社会の一員としての積極的な行動をすることが大切です。「心の東京ルール」を徹底していきましょう。

毎日きちんとあいさつさせよう

あいさつはお互いが気持ち良く生活するための信頼関係を作る第一歩です。あいさつは、しつけの基本。まずは大人のあなたから「おはよう」「おやすみ」「ありがとう」のひと声をかけましょう。

他人の子供でも叱ろう

「叱る」と「怒る」とは全く違います。「叱る」姿勢はその奥には、「良くなってほしい」という愛情があるはず。親の言葉より、他人からの一言が、身に沁みたことはありませんか。叱られることで、子供たちは時と場所に応じた振る舞い、社会のルールを身に付けていきます。

ねだる子供にがまんさせよう

「子供を不幸にする確かな方法は何でも手に入れられるようにすること」と、ジャン・ジャック・ルソー（フランスの哲学者）は言っています。何でも与えることが愛情でしょうか。がまんするからこそ、得られた時の嬉しさが実感でき、物を大切にすることを学びます。がまんとは自分の気持ちをコントロールすること。家庭で約束ごとを決めて、まず親から守っていく姿勢が大切です。

子供に手伝いをさせよう

子供は様々な体験の中から想像力を育み、人の痛みややさしさを理解するようになります。

手伝いは一番身近な体験の場。食事の片付けや、部屋の掃除、洗濯物干し、犬の散歩などの手伝いを続けるうちに、生活の知恵を会得することでしょう。

子供にその日のことを話させよう

親が熱心に耳をかたむけて話を聞いてくれる。子供にとって話をする楽しさを実感する時です。子供のつらい時の信号をうけとめるのも、常日頃からの会話です。まず話を聞くことから始めましょう。

先人や目上の人を敬う心を育てよう

人を敬う心をもたない者が、人に敬われることはありません。子供にとって「敬う」とは、その人を好きになり感謝の気持ちをもつことです。親が人に感謝し敬う心をもてば、その姿は子供に伝わり、親への感謝を通して人を敬う心が育っていきます。

体験の中で子供をきたえよう

たくさんの体験の中で、子供は失敗をくりかえし、危険を知り、見通しをもってものごとに取り組めるようになります。テレビやパソコンの普及で実体験が少なくなっている現在こそ、家庭や地域での豊かな体験が大切です。

心の東京ルール

～7つの呼びかけ～
より